

普及情報

分類名〔病害虫〕

情 11	ダイズのマメシクイガに対するフルキサメタミド乳剤およびクロラントラニリプロール水和剤の防除効果
------	---

宮城県古川農業試験場

## 要約

フルキサメタミド乳剤、クロラントラニリプロール水和剤の茎葉散布はダイズ害虫のマメシクイガに対して高い防除効果を示す。

## 1 取り上げた理由

フルキサメタミド乳剤は新たに開発された有効成分を含む薬剤である。また、クロラントラニリプロール水和剤はジアミド系殺虫剤であり、チョウ目害虫に高い殺虫効果を示すことが知られている。これらの薬剤は近年ダイズ害虫を対象に農薬登録されたことから、ダイズのマメシクイガにおいて防除試験を実施し、その効果が認められたため普及情報とする。

## 2 普及情報

- (1) フルキサメタミド乳剤はマメシクイガに対して、対照薬剤のペルメトリン乳剤と同程度の防除効果を示す（図1）。
- (2) クロラントラニリプロール水和剤はマメシクイガに対して、対照薬剤のシペルメトリン乳剤、ペルメトリン乳剤と同程度の防除効果を示す（図2）。

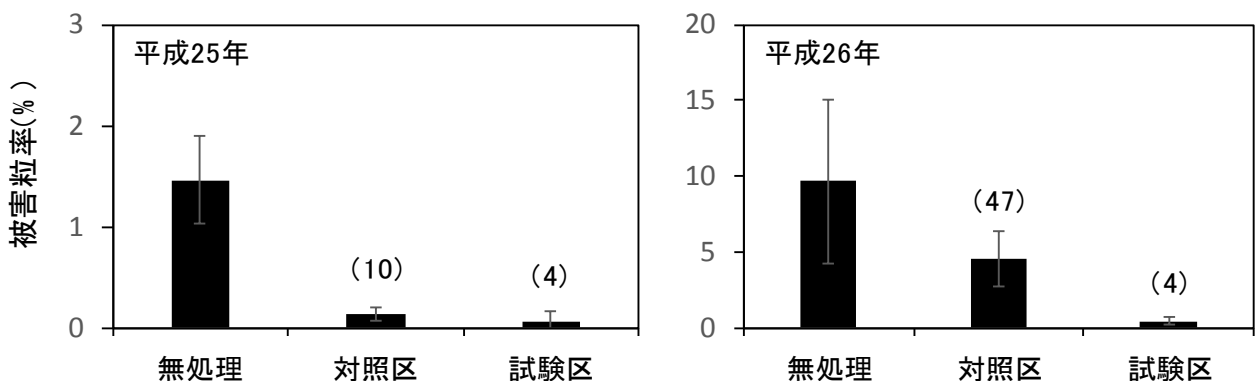


図1 マメシクイガに対するフルキサメタミド乳剤の防除効果

注1) 耕種概要 品種：タンレイ

平成25年：6月3日播種 8月30日，9月9日に薬剤を200L/10aで散布

平成26年：6月17日播種 8月29日，9月8日に薬剤を185L/10aで散布

注2) 試験区は2ヶ年ともフルキサメタミド乳剤3,000倍

注3) 対照区は，平成25年：ペルメトリン乳剤3,000倍，平成26年：ピリダリル水和剤2,000倍

注4) 平均値±標準偏差を示す。

注5) ()内の数値は対無処理比を示す。

## 3 利活用の留意点

- (1) フルキサメタミド乳剤の商品名は「グレーシア乳剤」，クロラントラニリプロール水和剤の商品名は「プレバソンフロアブル5」である。
- (2) マメシクイガの防除体系と防除薬剤の選定は，関連する普及に移す技術を参考にする。
- (3) 薬剤を使用する際は，最新の農薬登録情報を確認する（独立行政法人農林水産消費安全技術センタートップページ <http://www.famic.go.jp/>）。

（問い合わせ先：宮城県古川農業試験場作物環境部 電話0229-26-5100）

#### 4 背景となった主要な試験研究の概要

(1) 試験研究課題名及び研究期間

ダイズ病害虫の総合的管理技術の確立(平成 29 年度)

新農薬による病害虫防除に関する試験(平成 25, 26 年度)

(2) 参考データ

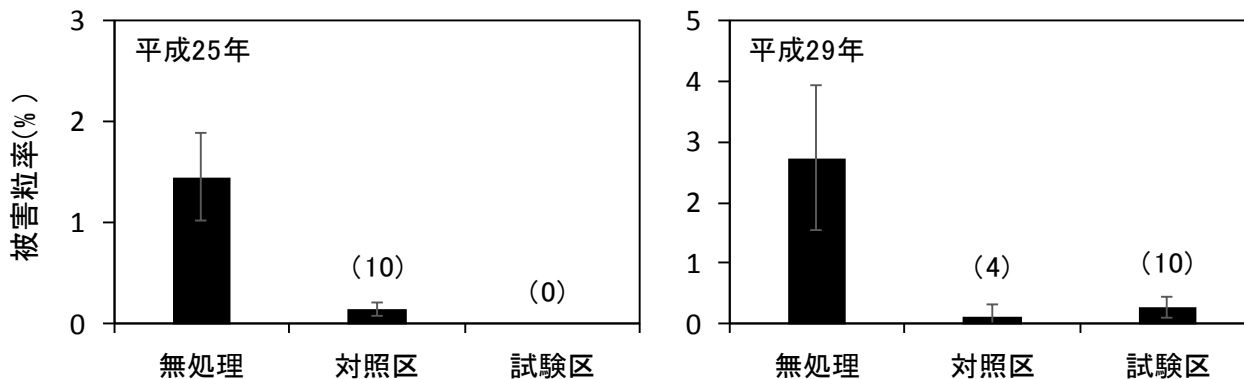


図2 マメシクイガに対するクロラントラニプロール水和剤の防除効果

注1) 耕種概要 品種：タンレイ

平成 25 年 6 月 3 日播種 8 月 30 日, 9 月 9 日に薬剤を 200L/10a で散布

平成 29 年 5 月 23 日播種 9 月 4 日に薬剤を 150L/10a で散布

注2) 試験区は2ヶ年ともクロラントラニプロール水和剤 4,000 倍

注3) 対照区は, 平成 25 年: ペルメトリン乳剤 3,000 倍, 平成 26 年: シペルメトリン乳剤 2,000 倍

注4) 平均値±標準偏差を示す。

注5) ()内の数値は対無処理比を示す。

表1 グレーシア乳剤のダイズにおける使用方法(平成31年1月現在)

作物名	適用病害虫	希釈倍数	使用方法	使用時期	使用回数	フルキサタミドを含む農薬の総使用回数
ダイズ	マメシクイガ	2000~	散布	収穫14日前まで	2回以内	2回以内
	ハスモンヨトウ	3000倍	散布			

表2 クロラントラニプロール水和剤のダイズにおける使用方法(平成31年1月現在)

作物名	適用病害虫	希釈倍数	使用方法	使用時期	使用回数	クロラントラニプロールを含む農薬の総使用回数
ダイズ	ウコンノメイガ	4000倍	散布	収穫7日前まで	2回以内	2回以内
		16~32倍	無人航空機による散布			
	オオタバコガ	4000倍	散布			
	マメシクイガ	4000倍	散布			
		16~32倍	無人航空機による散布			
	ハスモンヨトウ	4000倍	散布			
16~32倍		無人航空機による散布				

(3) 発表論文等

イ 関連する普及に移す技術

マメシクイガのダイズの総合的有害生物管理(IPM)における効果的防除法(普及に移す技術第84号参考資料)

ロ その他

(4) 共同研究機関

なし